

平成27年度 地域生涯学習活動実践交流セミナー 事業報告

○ 事業の概要

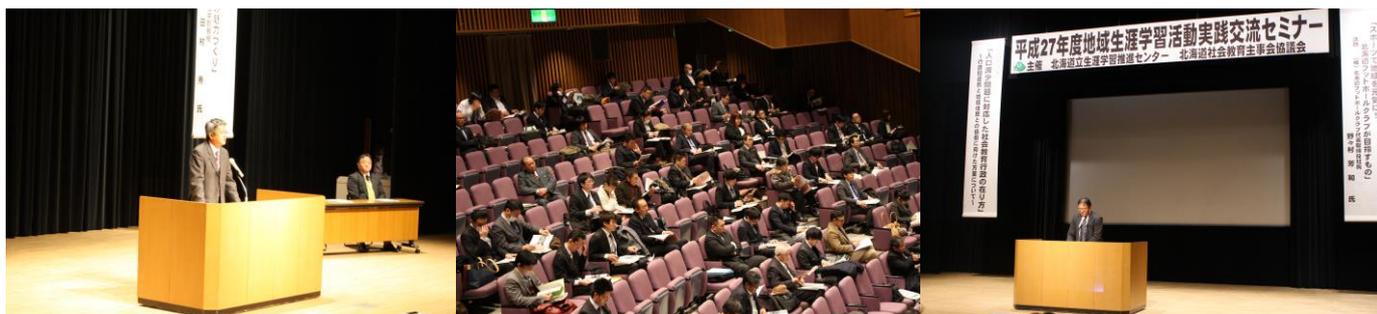
- 1 研究テーマ 「人口減少問題に対応した社会教育行政の在り方」
～ 行政間連携と地域住民との協働に向けた方策について ～
- 2 目的 本道における生涯学習活動の一層の推進を図るため、実践事例の交流等を通し、北海道における生涯学習活動推進上の課題解決を図る。
- 3 主催 北海道立生涯学習推進センター、北海道社会教育主事会協議会
- 4 期 日 平成28年2月16日（火）～ 17日（水）2日間
- 5 会 場 道民活動センタービル「かでの2・7」（かでのホール他）
- 6 対 象 生涯学習・社会教育を担当する行政職員、生涯学習・社会教育関連施設及び青少年教育施設等の職員、生涯学習・社会教育関係団体の職員、生涯学習・社会教育関係団体の各種委員 等
- 7 参加状況 参加者数 249名〔社会教育関係職員174名 社会教育関係職員以外75名（定員200名）〕

ブロック 管内	道 央			道 南				道 北			道 東				道外
	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	林-㇏	十勝	釧路	根室	
参加数	28	67	16	8	10	11	8	24	7	10	23	18	7	11	1
ブロック 人 数	111			37				41			59				1
合計人数	249														

8 プログラム

9:30		10:00		10:15		11:45		12:30		13:30		14:00		15:20		15:40		17:00	
第1日目 2月16日 (火)	受付	開 会	基調講義			パネル ディスカッション			昼 食 ・ 休 憩	センタ ー 調 査 研 究 報 告		事 例 発 表 1	移 動	協議1(分科会)			解 散		

9:30		10:50		11:10		12:30		13:30		15:30		15:45	
第2日目 2月17日 (水)	事 例 発 表 2	移 動	協議2(分科会)			昼 食 ・ 休 憩	特別講演			閉 会	解 散		



(1) 基調講義「人口減少を背景にした地域の在り方・地域の魅力づくり」

【講師】新潟大学学長特命補佐・法学部教授 田村 秀氏

【内容】人口減少を背景に、人口が減ると何が問題なのかをデータ等の分析からわかりやすく説明いただいた。また、自治体が連携や協働などあらゆる機関とのコラボレーションが必要な時代を迎えていることや、人口減少による自治体崩壊の時代において、地域の魅力をどのように生かすかを、社会教育に期待することとお話しいただくとともに、現代の小中高生には地域学を学ばせる機会を持つことが重要であるとの示唆をいただいた。



(2) パネルディスカッション

【コーディネーター】北海道立生涯学習推進センター

久保 大輔

【パネリスト】道央ブロック〈石狩管内社会教育主事会〉
道南ブロック〈胆振管内社会教育主事会〉
道北ブロック〈上川管内社会教育主事会〉
道東ブロック〈旭川管内社会教育主事会〉
教育庁義務教育課子ども地域支援G

西山 隆之氏 (石狩市教委)
蛭名 雄一氏 (壮瞥町教委)
大沼 哲也氏 (鷹栖町教委)
勝田 全氏 (大空町教委)
長岡 広之氏

【内容】各ブロックのパネリストに、全道研からこれまでの取組や実践について御紹介いただくとともに、道教委からは、コミュニティ・スクールの導入について、経過や道内の状況を説明いただいた。また、学校を核とした地域づくり、地域住民との協働について意見交換を行い、最後に、各ブロックにおける取組の方向性についてお話しいただいた。



(3) 北海道立生涯学習推進センター調査研究報告

【報告者】北海道立生涯学習推進センター 會田 大祐

【内容】生涯学習推進センターが行う調査研究における報告を行った。今後の人口減少における社会的背景から、広域的で一体となった取組が必要であり、道内の市町村に対して行ったアンケートをもとにその方向性を定めるための調査であることを説明した。またその取組として、人と人との繋がりを意識し、地域学や地元学などのふるさと教育を学ぶ機会を提供することを1つの案として示した。



(4) 事例発表・協議

1日目(2月16日)

【事例発表1】

No	事例テーマ	管内	市町村	発表者(敬称略)
1	ジュニアリーダーの養成の取り組みを通した、子供たちとの住民協働	石狩	当別町	佐藤 恵大
2	「ふるさとをつなぐ絵本のチカラ」～地域住民と行政の協働～	檜山	今金町	木村 堯史
3	「土幌高校『志プロジェクト』の取り組み」	十勝	土幌町	橋本 洋介
4	高校生ボランティアリーダー養成事業について	留萌	遠別町	小林 大輔

【内容】人口減少を背景に、住民自らが参画し、地域やまちのよさを生かしたまちづくりを進めるために、地域住民との協働や他部局との連携(互助、共助)を視点とした実践事例について発表があった



【協議1】(敬称略)

No	事例テーマ	会場	進行	記録
1	ジュニアリーダーの養成の取り組みを通した、子供たちとの住民協働	820 研修室	西江 和彦 石狩管内 新篠津村	本間 真 後志管内 黒松内町
2	「ふるさとをつなぐ絵本のチカラ」～地域住民と行政の協働～	1060 会議室	佐々木 健一 渡島管内 松前町	増田 仁 渡島管内 鹿部町
3	「土幌高校『志プロジェクト』の取り組み」	730 研修室	山田 早織 十勝管内 芽室町	黒崎 浩史 釧路管内 鶴居村
4	高校生ボランティアリーダー養成事業について	1040 会議室	佐藤 聖也 上川管内 剣淵町	下田 学 留萌管内 苫前町

【内容】実践事例を基に、協議の柱を「持続可能なまちづくりに向けた人材育成」「地域課題に社会教育行政がすべきこと」として、4つの分科会に分かれて協議を行った。



2日目(2月17日)

【事例発表2】

No	事例テーマ	管内	市町村	発表者(敬称略)
5	サテライト・キャンパス事業 (講座の運営及び地域と大学との連携による協働事業の実施)	空知	美瑛市	有田 大悟
6	青年活動の活性化と地域おこし	渡島	鹿部町	佐々木 亮介
7	「創作料理プロジェクト」の可能性～『高校生チャレンジグルメコンテスト』に向けた“普通科高校”の挑戦～	根室	羅臼町	今泉 亮人
8	上川管内社会教育主事会南部ブロック研究事業『What's Up? Furano』について	上川	富良野市	谷口 大奨

【内 容】人口減少を背景に、住民自らが参画し、地域やまちのよさを生かしたまちづくりを進めるために、地域住民との協働や他部局との連携（互助、共助）を視点とした実践事例について発表があった。



【協 議 2】（敬称略）

No	事例テーマ	会 場	進 行	記 録
5	サテライト・キャンパス事業 （講座の運営及び地域と大学との連携による協働事業の実施）	730 研修室	高 橋 淳 空知管内 北竜町	干 場 雅 矢 後志管内 仁木町
6	青年活動の活性化と地域おこし	820 会議室	皆 嶋 佳那子 胆振管内 安平町	小林 笑 檜山管内 せたな町
7	「創作料理プロジェクト」の可能性～『高校生チャレンジグルメコンテスト』に向けた“普通科高校”の挑戦～	1030 会議室	和 田 康 弘 根室管内 中標津町	山 本 敦 士 オホーツク管内 美幌町
8	上川管内社会教育主事会南部ブロック研究事業『What's Up? Furano』について	1040 会議室	土 門 啓 二 宗谷管内 利尻町	桑 田 誕 宗谷管内 豊富町

【内 容】実践事例を基に、協議の柱を「持続可能なまちづくりに向けた人材育成」「地域課題に社会教育行政がすべきこと」として、4つの分科会に分かれて協議を行った。



（5）特別講演「スポーツで地域を元気に！北海道フットボールクラブが目指すもの」

【講 師】株式会社北海道フットボールクラブ代表取締役社長 野々村 芳 和氏

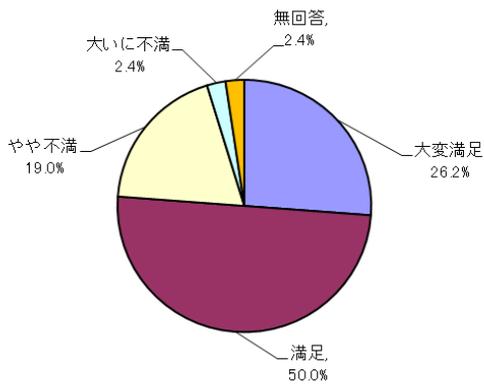
【内 容】北海道のフットボールチームの代表であるという意識のもと、「北海道コンサドーレ札幌」が地域に根ざしたチームとして在り続けるためのマネジメントについて紹介いただいた。シーズン中でも子どもたちのスポーツを支える活動やサッカーをとおして子どもたちに将来のビジョンをしっかりと持たせるなど、社会教育のヒントとなるお話をいただいた。



○ 事業の満足度

1 講座全体への満足度

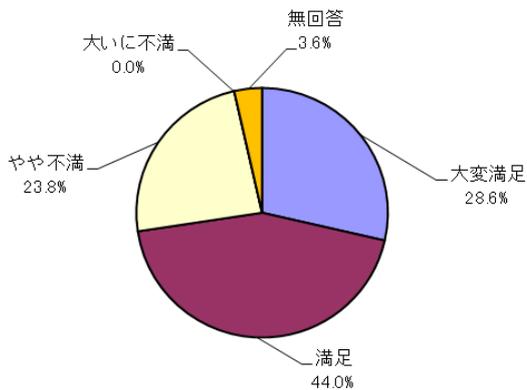
回答者数 84名 (回収率 33.7%)



満足度	大変満足・満足 76.2%
-----	------------------

大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
26.2%	50.0%	19.0%	2.4%	2.4%

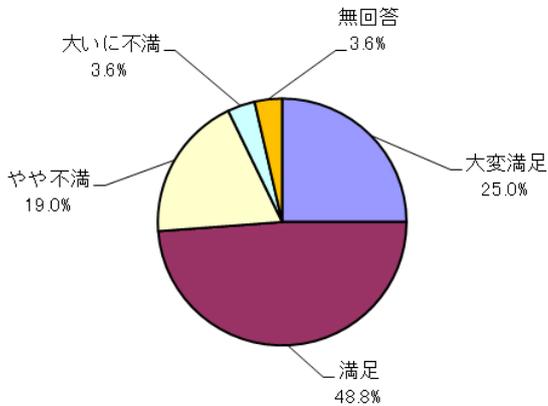
2 (1) 基調講義



満足度	大変満足・満足 72.6%
-----	------------------

大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
28.6%	44.0%	23.8%	0.0%	3.6%

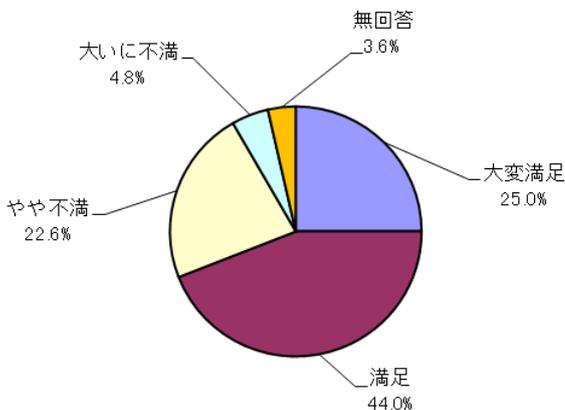
(2) パネルディスカッション



満足度	大変満足・満足 73.8%
-----	------------------

大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
25.0%	48.8%	19.0%	3.6%	3.6%

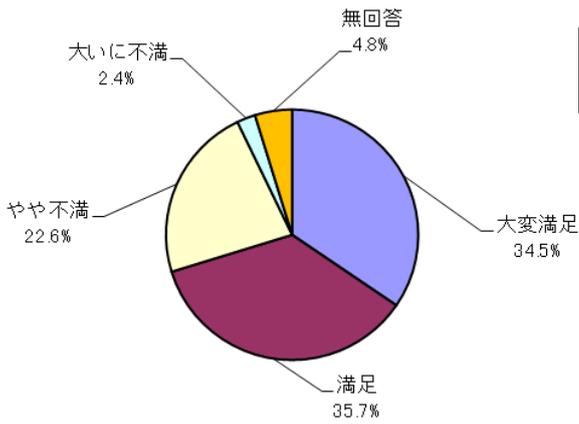
(3) 北海道立生涯学習推進センター調査研究報告



満足度	大変満足・満足 69.0%
-----	------------------

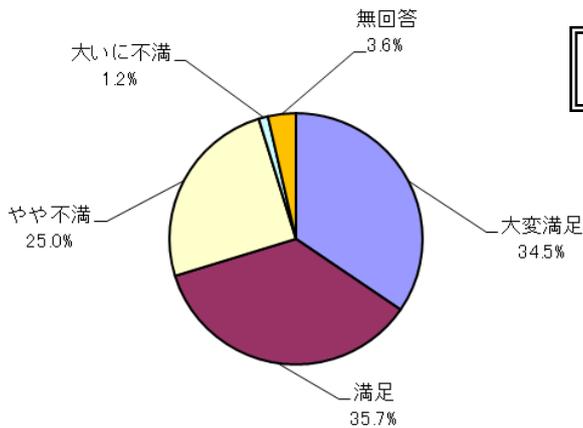
大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
25.0%	44.0%	22.6%	4.8%	3.6%

(4) 事例発表・協議1日目



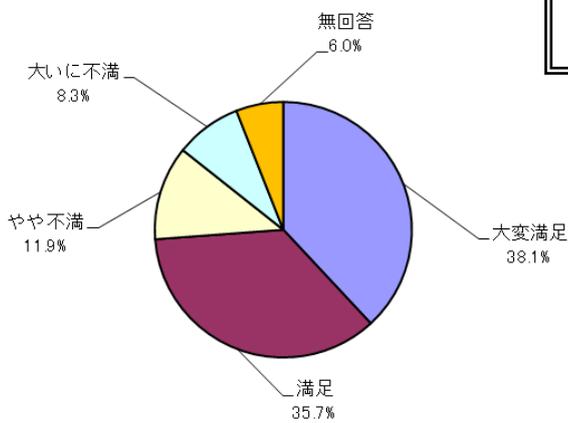
満足度	大変満足・満足				
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
	34.5%	35.7%	22.6%	2.4%	4.8%

(5) 事例発表・協議2日目



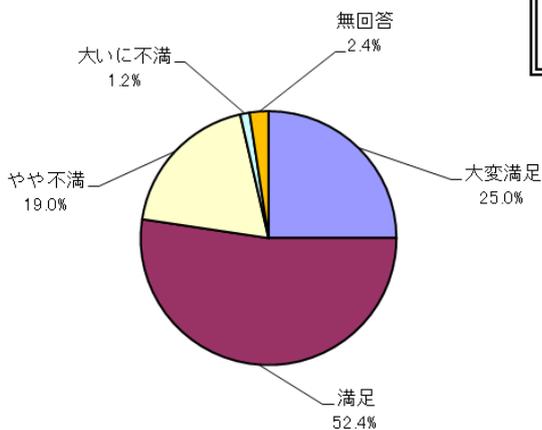
満足度	大変満足・満足				
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
	34.5%	35.7%	25.0%	1.2%	3.6%

(6) 特別講演



満足度	大変満足・満足				
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
	38.1%	35.7%	11.9%	8.3%	6.0%

3 講座の運営



満足度	大変満足・満足				
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
	25.0%	52.4%	19.0%	1.2%	2.4%

【参加者の主な声】

＜講座全体を通して＞

- 事例発表や分科会等、たくさんのお話を聞くことができ、大変勉強になりました。
- 学びが多く、他地域のお話を聞くことができ、今後の方針を決める一助となった。
- 少し協議の時間が慌ただしく感じたが、学ぶべきことがたくさんあり、これからの業務に生かそうと思った。
- テーマに合った内容で、多様な協議ができた。
- ワークショップでたくさんのお参考となる意見が出され、地元に戻り実践に生かしたいと思った。
- 分科会で、様々な立場の方と話すことができ、有意義な時間を過ごすことができた。
- 今後のまちづくりの参考、指針となった。
- アイディア的なことを知ることができただけであり、深みがなかった。
- 過去のような、しっかりとグループワークを行う形式の研修方法がよかったと感じた。
- 全体的にテーマからずれがあり、「人口減少問題は社会教育ではどうしようもないのではないか」という我々の意識を変えて欲しかった。

＜基調講義＞

- 地方の事例を取り入れた内容であり、いろいろな視点で物事を見なければいけないことを再確認できた。
- 次代を担う小中高校生のことを聞くことは大切なことであることに気付かされた。
- 数十年後の地域づくりのために何に取り組むべきかを考えさせられる内容だった。
- 人口減少を受け止め、まちの実情に合ったアイディアを考えなければと感じた。
- 地域力を身に付けるという発想がすばらしいと感じるとともに、そのためには自分のまちのよさをもっと知る必要があると思った。
- 地域で連携して取り組むことの大切さや、「よそ者」視点で、地域のよさや課題を見つける必要性について学んだ。
- 基調講義が、もう少し具体的な内容であればよかった。
- 人口減少に関するデータや事例等を紹介していただいたが、社会教育行政として何をすべきなのかが明確ではなかったような気がした。
- 社会教育に期待する部分や社会教育関係団体へのアプローチについて、もう少し聞きたかった。

＜パネルディスカッション＞

- パネリストのお話を聞き、改めて行政や広域等の連携を強化していくことが大事だということに気が付いた。
- 高等学校が地域づくりに参加することは、キャリア教育や学校の特色づくりに効果的だと思った。
- 各ブロックでの成果や課題が見え、次年度以降の参考になった。
- 義務教育課が来ていたのはよかった。連携が進んだように感じたし、今後の道の連携に対する期待も高まった。
- コミュニティ・スクールの導入など学校との連携を図っていくことの大切さがわかった。
- ブロック研修会の報告なのか、ディスカッションになっていない気がした。
- もっとざっくりばらんに話をしてもらった方が、深い中身を聞き出せたのではないかなと思った。
- 何について話す（ディスカッション）のか、あらかじめ大まかに示しておいて欲しかった。

＜北海道立生涯学習推進センター調査研究報告＞

- 行政だけではなく地域も巻き込み学習機会を設けて協議することが必要だと感じた。
- 最近の研究は目的が明確なので、是非続けて欲しい。
- 持続可能な社会づくりの担い手づくり、体制づくりに関する調査研究のデータから、地域学を提供していく必要性について理解できた。
- データを有効活用させてもらおうと思った。
- 地域学が1つの答えのように提示されたが、「地域学」のモデル化を研究した方がいいのではないかなと思った。
- この報告の部分をしっかり厚く行って欲しいと思った。

<事例発表・協議 1日目>

- 地元が好きになる人材育成、魅力あるまちづくりをすることで人口減少問題の解決につながるのではないかと思った。
- 社会教育の課題に対する視点や考え方を事例から学ぶことができ、参考になった。
- 各地域の担当者と意見交流ができ、大変よかった。
- 限られた時間の中での協議なので、発表を目標とせず、グループ討議を重点にできれば、より実りあるものにできると思った。
- 事例の内容について、社会教育がどのように関わったのかをもっと教えて欲しかった。
- 協議のテーマについて理解を深めることも必要だが、事例の中身をもっと深めたかった。

<事例発表・協議 2日目>

- 参加者がそれぞれのまちの課題を情報交流しながら、協議の柱に基づいて話し合いを進められたのでよかった。
- 若い職員が発表する場（機会）があるのは、経験による職員の育成につながるので、大変よかった。
- 協議については、1日目よりもじっくりと話しをすることができ、事例に対する理解を深めることができた。
- ファシリテーターの時間配分、進行に難があったように感じた。
- 2日間、協議の視点が同じテーマで、議論がつきていた感じがした。

<特別講演>

- 地域に根ざしたチームと地域貢献とかに生かすべきか、課題はたくさんあるが、道民はもっと協力すべきであると思った。
- プロモーションとビジネス戦略は社会教育事業に通じるものがあった。
- とてもおもしろい話だった。苦境を乗り越えるための戦略、前向きさが、社会教育主事の役割とリンクした。
- スポーツビジネスの具体的なお話を聞くことができた。
- おもしろかったが、実践に生かせる内容かどうかは微妙に感じた。
- 経済等の話しやテーマに関係する方のお話しが聞きたかった。

<講座の運営>

- グループ協議や講義もあり、他市町村の情報提供により、コミュニケーションも取れて、バランスがよかった。
- 12:30からの昼食は、食堂の混雑を避けられるのでよかった。
- よい研修会にしようとする姿勢が伝わってきた。
- 協議の進行役は頑張っていたと思った。
- 内容はとてもよかった。もう少し市町村の事例を交流できるとよかった。
- 2日目の講演は1時間30分で、全体を30分繰り上げていただけると、帰る時間に少し余裕が持てるので、平日開催であることも合わせてご配慮いただきたい。

<その他>

- 社会教育の研修で「青年教育」をいう言葉を久しぶりに聞きました。人口減少問題をテーマとしたとき避けられないことであり、今後の展開に期待したい。
- 人口減少をどう捉えるか、視点の持ち方がそれぞれ違う中で、どのように意見をまとめていくかが、これからの課題かと思った。
- 分科会の協議の柱は、行政の職員向けという感じがおり、社会教育委員など、行政関係者以外の立場で参加している方は参加しにくいと感じた。
- グループワークの運営は限界のような感じがした。
- 特別講演はスポーツの人もよいが、芸術・文化系の人の話も聞きたいと思った。